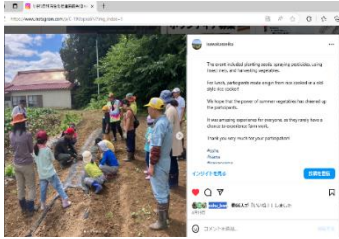


令和7年度東北農政局「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」選定地区

ビジネス・イノベーション部門

No.	都道府県	市町村	地区名		取組の概要
1	青森県	藤崎町	ふじさき食彩テラス	 商品開発され、直売所の集客に大きく貢献したりんごあめ	農産物直売所への集客を目的に、「ふじ」りんご発祥の地である藤崎町のブランドをいかし「ふじさきまちのりんごあめ」を商品化。SNSでのPR、イベント販売等に取り組み、来店者数は大幅増加。さらに、規格外野菜の活用イベント開催等で食育と地域交流を強化。取組の結果、売上は大幅に増加し、農業者の所得向上と地域活性化に寄与している。
2	岩手県	奥州市	いさわ農村活性化推進協議会	 親子農業体験の様子を英訳付きInstagramで発信	地元若手農家と高校生ボランティア、地域おこし協力隊員が中心となって古民家を再生し、活動拠点として整備。担い手確保を目的とした農業体験・研修事業、インバウンド向けバスツアー(胆沢平野の農業文化の史跡等を廻るツアー)等を企画実施し、大好評を得ている。 令和4年からはSNSでの情報発信にも積極的に取り組み、英訳付きで98回投稿し、フォロワー数が501人まで増大している。
3	福島県	平田村	道の駅ひらた「日本一辛い村プロジェクト」	 イベントに参加したハバネロ生産者	震災後、見た目の可愛さから風評被害を払拭できる可能性を考えた農家3軒がハバネロ栽培を開始。現在、農家16軒(面積50a)で収穫量10,000kgを目標に栽培している。また、46品目の関連商品を開発し、商標登録も6件取得。芸能事務所とのコラボやSNS発信で知名度を拡大。毎年開催する「ハバフェス」では地域住民を巻き込み、観光と食を融合したイベントを展開している。

4	福島県	福島市	福島ユナイテッドFC農業部	 農業部に所属するプロサッカー選手達	震災後の風評被害払拭を目的に農業部を設立。選手が地元農家とともに桃、アスパラガス、ぶどう、米などを栽培。試合会場やECサイトで販売し、ファンとの交流を促進。農業体験イベントや食育活動も実施し、地域ブランド力を高めている。2024年は試合会場出店39回、EC販売1,010個を達成。
---	-----	-----	---------------	---	--

コミュニティ・地産地消部門

No.	都道府県	市町村	地 区 名		取 組 の 概 要
5	秋田県	東成瀬村	株式会社 風鈴	 「冥土の土産米」PR用集合写真	高齢者が「働き続けること」で生きがいを得る環境を整えるため、平成25年に福祉農園を開設。野菜栽培、手植え・手刈りによる天日干し米の生産、稲わらやスゲを使った正月飾り作りなどを実施。生産した米を「冥土の土産米」として全国販売したところ即完売。近年は高齢者施設への横展開やふるさと納税の返礼品対応も開始。農福連携により認知症予防や健康寿命の延伸に寄与。

個人部門

No.	都道府県	市町村	地 区 名		取 組 の 概 要
6	秋田県	潟上市	菊地 晃生	 菊地晃生 本人  笹巻づくりの様子	都市部の消費者を対象に米、野菜の農業体験ができる仕組みづくりと活動拠点を整備。併せて伝統技術の再生・継承を目的とした漬物、菅笠(スゲガサ)の製造、販売を実施。さらに、都市と農村の多様な主体が関わることのできるコミュニティづくり(笹巻、味噌づくり等一年を通じた食品加工体験や地域の伝統行事の企画)にも取り組んでいる。

令和7年度東北農政局「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」奨励賞選定地区

奨励賞				
No.	都道府県	市町村	地区名	取組の概要
1	青森県	平内町	社会福祉法人 青森県すこやか福祉事業団 就労サポートセンターさつき  田植え補助作業の様子  漁具修繕請負	地域の耕作放棄地や水産業、林業資源を活用し、障がい者の就労機会を創出する農福連携モデルを構築。耕作放棄された水田での稲作再開、漁具補修など軽作業の請け負い、伐採木材の薪材への加工等、農・林・水産業を横断した作業を提供。結果、平均工賃は県平均を上回る実績を達成。その他、きくらげ菌床を活用し有機肥料化を行うなど循環型農業にも寄与。
2	岩手県	紫波町	Green Neighbors Hard Cider 株式会社  「摘果りんご」に新しい価値を付加  ハードサイダー	未利用資源である摘果りんごの選定基準と品質管理をりんご生産者と共有し「ハードサイダー(りんごの発泡性果実酒)」の原材料として安定調達。搾汁～醸造～販売を生産者、搾汁加工業者、応募団体の三者で分担し、売価改定時に原料支払も同時に引上げる取引原則で、地域内価値循環を実現。結果、年間出荷(350ml缶)2万本超、視察約50件を受け入れ。メディア掲載は20件以上。
3	岩手県	盛岡市	岩手大学クラフトビール部  『岩手県初』県産原料100%	県内ブルワリーとの連携し遊休農地を活用したビール麦栽培、寒冷地向け種子生産、品種改良を進め、岩手県初の県産原料100%ビールを完成させ、通年で岩手県内に供給。県内にビール原料の生産基盤を構築しただけでなく、当該ビールを消費することでの消費者参加による地域発展の仕組みづくりにも貢献。より多くの人々が地域課題に関心を持ち、取り組みに参加する機会創出につながっている。
4	宮城県	松島町	宮城県松島高等学校 パソコン部  松島町での観光デジタルARマップと3Dモデル発表の様子	松島湾の藻場再生と未利用野菜の活用、観光DX(ARマップ・3Dモデル)を組み合わせ、松島町や環境NPO法人、地元企業との連携し地域活性化に取り組む。アカモク等のブルーカーボン資源や未利用野菜を用いたスイーツ「どらモク」「もたらし団子」等を企画・販売し、藻場再生活動や、観光DXコンテンツでの周遊促進を図っている。

5	宮城県	塩釜市	♡つながーる♡	 地元塩釜市の水産の祭典参加、メディア取材、PR活動	地元塩釜の水産業を明るく未来へ繋ぐことを目的に女子高生6名が起業。塩釜市の地元資源の活用と魚食普及のため、未利用部位(マグロすじ肉)を用いた「NEW塩竈汁」を開発しイベント販売・SNS発信を実施。未利用魚「アカエイ」は中学生・大学・加工業者・調味料メーカーと連携し唐揚げ商品として普及。地元水産のPRやふるさと納税の周知にも貢献。
6	秋田県	横手市	株式会社みずほライス	 「みずほライス」で整備した農福加工センターでの作業風景	横手市睦成地区の3軒の農家が集まり農業法人を開業。農福連携に力を入れ、「4桁時給を払える農福」を目標に掲げ取り組んでいる。また、託児所併設で子育て女性・シングルマザーの就労を支援や障がい者デザインの枝豆キャラクター×ARでの農福直売への集客・関係人口を創出に取り組んでいる。結果、農福関連売上は増加し、交流人口が拡大。売上額も伸びている。
7	山形県	飯豊町	バイオマス液肥利用組合	 ながめやまバイオガス発電所全景	飯豊町の米沢牛飼養農家から出る家畜ふん尿と食品残渣をメタン発酵し、発電と同時に液肥を生成。地元稲作農家と連携し牧草地・水田へ散布。化学肥料の代替とコスト削減(主食用米で約26%、飼料用稲で73～79%)を図っている。発電した電力の地域への供給、学校・地域からの見学受入れや液肥の無償スタンド設置で取組の普及を図っている。
8	福島県	昭和村 柳津町 三島町 金山町	会津よつば農業協同組合昭和かすみ草部会	 昭和村農林水産物集出荷貯蔵施設(雪室)と市場における展示・PRの様子	平成17年に豪雪地帯という不利を逆手に取り、雪を活用した集出荷貯蔵施設(雪室)を整備。持続可能でecoな冷却方法を確立し、生産を拡大してきた「宿根かすみ草」の鮮度保持に係る冷却コストの課題解決や品質改善に貢献。全国29市場と連携し、2024年には「昭和かすみ草」をGI登録。新規就農者研修等で担い手を継続確保している。(就農5年以内定着率10年連続100%を達成。)
9	福島県	西会津町	奥川地域づくり協議会	 大学生や都会の社会人、アーティストが参加しての田植えの様子  大学生や社会人が参加し地元住民と交流しながら行う堰上げ人足	集落機能の維持や地域活動の担い手不足が深刻な課題となっているなか、人足(堰上げ・水路保全・草刈り・田植え・稲刈り)を外材と協働。福島大や東京大等各大学も参画し、地域づくりの実践に触れる機会となっているほか、中学生向け授業開発を行い町の発展にも寄与している。 また、地域ドキュメンタリー映画の制作・上映、イベントの開催等で都市住民とのつながりを形成。令和6年には町訪問者600人超と人口を上回る関係人口を創出している。